

出張報告書

令和 元年 11月 20日

市議会議長 様

会 派 名 誠和 737~
代表者氏名 鳥居宏次(署名もしくは記名押印)

下記のとおり報告します。

記

- 1 目 的 第14回全国市議会議長会研究フォーラム
- 2 出張先 高知ちほろセンター
- 3 出張期間 令和 元年 10月 30日～令和 元年 10月 31日
- 4 出張者氏名 岡林寛二・殿本マリ子
- 5 てん末報告
別紙のとおり

全国市議会議長会 研修フォーラムに参加して

二日間におけるフォーラムに参加して、基調講演の「中島岳志」先生の「現在政治のマトリクスリベラル保守という可能性」の講演は私にとってはとても難しいお話でした。

宗教戦争から現在の政治への繋がりについてフランス革命を例にして説明を受けました。なぜ保守がリベラルにつながるのかを深い考察を踏まえ講演され、大学の講義を聞いているようで一市議会議員としては難しく、もっと勉強するべきだということを考えさせられました。

次に、パネラーの方々が「議会活性化のための船中八策」と題してディスカッションされました。身近に感じることが出来る内容で、特に、女性議員がなぜ少ないのか、投票率の低下、兼職・兼業規則の弾力化など沢山の意見が出ました。

又、議員が知らないところで市長が全て決めてしまって、市長与党とはあり得ない議会与党にならなければいけないとか他の市でも言われています。

最近の岸和田市をみても、知らないうちに市長側で決められていることが多いと思います。もっと議員も参加でき、意見を反映できなければなりません。

他には条件の中に多様性への尊重を入れるべきだとの意見もありました、この意見については今後の課題となるでしょう。

パネリストの方々の経験から色々なお話を聞き、とても参考になりました。

特に、「根本的には日本の社会が女性や若者には生きづらい社会である。」との発言が、私には印象的でした。その社会を変革していくことが、地方都市の女性市議会議員である私達の果たすべき役割ではないでしょうか。

報告者	殿本マリ子
-----	-------